



# 群馬県立小児医療センターだより

平成25年7月  
No.030

発行 群馬県立小児医療センター 地域医療連携室  
〒377-8577 渋川市北橋町下箱田779番地  
Tel ● 0279-52-3551(代表) Tel ● 0279-52-4000(予約専用)  
Tel ● 0279-52-7171(地域医療連携室) Fax ● 0279-52-7333(地域医療連携室)  
URL ● <http://www.gcmc.pref.gunma.jp>

## ごあいさつ ～病院機能評価 (Ver. 6.0) の認定取得～

院長 林 泰秀



当センターは、(財)日本医療機能評価機構が行っている病院機能評価 (Ver. 5.0) を2008年に取得しましたが、5年間の認定期間が終了し本年2月に受審をし、6月にVer. 6.0の認定を取得致しました。

本年2月に電子カルテを導入して当センター内のIT化を進めてきました。並行して、病院機能評価の認定取得のために昨年の9月から準備委員会を立ち上げ、受審に備えてまいりました。今回の認定取得は、これに関わった多くの病院職員の協力と努力の賜物であり、病院全体がまとまって成し遂げた大変意義があるものと思われま。また、当センターの診療内容を、設備、組織その他様々な点で再点検を行い、「小児の専門病院として、未来あるこどもたちの生命をまもり、すこやかな成長発達を支援します」という我々の基本理念にのっとった「安全、安心で優しい医療」を行うために必要な

機能を有しているということを立て証されたものと考えておりま。す。

私たちは、今回の病院機能評価の認定取得をステップとして、来年の4月からのDPC導入に向けて準備をしており、小児の専門病院として高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院として群馬県の医療に一層貢献していく所存であります。これを実現するため、今後はこれまで以上にチーム医療や適正な情報公開と診療情報の共有などといった部分にも力を入れて医療内容を充実し、国内外に当センターからの新しい情報を発信し、健全で透明性の高い病院経営をめざします。

## 病院機能評価とは

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動 (機能) が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者 (サーベイヤー) が中立・公平な立場にたつて、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

病院機能評価の審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」です。すなわち認定病院は、地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であると言えます。すでに全国の病院の約3割が認定されています。(公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページより)



### バージョン6.0における評価項目の領域

1. 病院組織の運営と地域における役割
2. 患者の権利と医療の質および安全の確保
3. 療養環境と患者サービス
4. 医療の提供の組織と運営
5. 医療の質と安全のためのケアプロセス
6. 病院運営管理の合理性

## 各部署ごとの取り組み

### 医療局 副院長 丸山 健一

当院は小児・総合周産期専門病院として高度医療を提供していますが、各診療科あるいは職種間の連携は極めて良好で、以前より患者さんを中心としたチーム医療を実践してまいりました。そのため、今回のVer.6.0の診療部門における評価項目についても、ほとんどは達成できているものと判断していましたが、受審に際しましては、各診療科長に診療指針・マニュアルの再確認や新規作成をお願いしました。短期間ではありましたが、各科長には快諾していただき、当院の診療方針を改めて成文化することができました。さらに、2月25日から電子カルテが導入されたことで、各セクションにおける診療情報の共有化がこれまで以上に進んだものと考えております。

### 薬剤部 薬剤部長 木暮 政恵

医療安全管理者からの5S活動ののって、部内の整理整頓を実施し、必要なものをわかりやすく保管陳列することから受審準備が始まりました。使用しなくなった製剤機器や材料も発見され、薬剤部の歴史に浸る場面もありました。

注射薬の個人別セットはしていましたが、注射薬の施用別セットを今回の受審を機会に看護部と協議して開始しました。

麻薬の定数配置場所へ1日1回は薬剤師が点検し記録することを手順に盛り込みました。

「院内での薬剤の管理は薬剤師が行う」という観点から医薬品の安全管理を考える業務改善でした。医療安全も含め、薬剤師と病棟で相談しながら問題を整理したり、手順を決めたりと様々な作業をすることで意思疎通が図れたと感じています。今後のこの連携を深めていくことが、機能評価の成果と思っています。

### リハビリテーション課 課長 田島 弘

当センターのリハビリテーション部門には、障害児リハのスタート地点の機能と、急性期リハの拠点機能があります。平成24年度に心リハ指導士の資格を持つ理学療法士が1名配置され心臓リハビリテーションが本格稼働し、それまでの呼吸理学療法、摂食機能療法、整形術後リハに加え、術後急性期の心臓リハビリテーション機能が充実・強化されました。今回の審査では、急性期リハの充実・強化に伴い、患者さんにより安全・安心なリハビリテーションを提供するため、リハビリテーション中止基準を整備し、患者安全確保マニュアルと緊急時の連絡体制を見直しました。また、病棟担当制を確立して各病棟カンファレンスに参加し、医師、看護師とのチーム連携の強化を図りました。



### 看護部 看護部長 下田 あい子

病院機能評価は、病院が組織的に、安心、安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供するために、日々努力しているかを評価することです。看護部としては、行われている看護ケアが、マニュアルとして整備され、それに基づき実施、評価を行っているか、その内容が看護記録に反映されているかが鍵となります。今回の審査では、幸いなことに、前回病院機能評価受審を経験した師長・副師長が多く、先頭に立ち采配してくれたため、一つ一つ確実に進み、成果を得ることができました。また、全職員が自分の役割を遂行するために、多くのことを検討し看護の質向上、安全な医療の推進、お互いを認め合うチーム作りに貢献できたと考えます。看護部が一丸となり取り組めたことを心から感謝します。

### 検査課 技術部長 中村 雄策

当センターの検査課は、小児専門の2次・3次救急対応医療機関としての専門性に対応するため、24時間の当直体制をとっています。また、日頃から緊急検査に対応できる人材の育成に取り組んでいます。

今回「病院機能評価 Ver.6.0」の認定受審に当たって、以下の3項目を中心に、日頃の取り組みについてあらためて再検討を行いました。

#### 1 精度の高い検査が実施されているか？

- 検査機器の保守点検や内部・外部精度管理への参加状況について、異常値やパニック値への対応状況について確認を行いました。

#### 2 検査業務が安全に実施されているか？

- 検査手順書の見直し、誤認防止手順の再検討を行いました。
- 「システムダウン時における対応マニュアル」の作成を行いました。
- 5S活動の実践により、検査室内の整理・整頓に努めました。

#### 3 臨床検査機能の質改善に取り組んでいるか？

- 課員のレベルアップのため、学会・研修会への参加を積極的に奨励。
- 課内研修・勉強会を開催、技術の向上に努めています。
- 臨床検査委員会を定期的に開催し、検査部門における問題点や課題を把握し検討を行っています。

こうした取り組みを今後も継続して実施していくことで、検査課として安心・安全な医療の提供に努めていきます。

### 放射線課 課長 都丸 健一

機能評価 Ver.6.0審査に際し、放射線課は気合いを入れて取り組みました。なにしろ院内講話会にて、当課の整理状況は「非常によろしくない!」との指摘を受けたため必死でした。すべての資料を確認して適正化を図り、5Sを徹底しました。あまりに力を入れ過ぎて、必要な物まで廃棄し後から慌てる事態にもなりましたが…。特に各マニュアル類は担当者の熱演(?)のもと、すべて動画にて作成しタブレットに取込みました。いつでも簡単に参照でき、文字よりも遙かに解り易く非常に有効です。また、5Sに関しては院長賞を受賞しました。機能評価を医療安全のためのツールと考え、現状維持ではなく更に向上させるべく課員一同心掛けています。

## 臨床工学室 主幹 関 明彦

臨床工学室では、病院機能評価受審に向けて、特定医療機器(人工呼吸器・人工心肺装置・補助循環装置・血液浄化装置・除細動器・保育器)をはじめとして、その他の医療機器の保守点検、貸出から返却までの管理体制の見直しを行い、医療機器専用管理ソフトを使用して、機器1台1台の状態を把握すると共に、各種管理マニュアルの改定等を行い、安全な医療機器の提供ができるよう整備しました。

また、医療機器の高度化に伴い、機器の性能や安全性が向上した反面、機器の操作性が複雑化してきています。そのため、実際に医療機器を使用する人たちが、安心して使用できるように、看護師を対象に機器の取扱や異常時の対処法等の説明会を行ったり、患者さんが在宅に移行する場合、ご家族の方に在宅用医療機器の説明を行ったりしています。

このように、医療機器管理だけではなく、患者さんやご家族の方との繋がりを大切にしながら、今後も安心して安全な医療機器の提供ができるように努力していくことが、さらなる医療サービスの向上に繋がるのではないかと考えています。

## 医療安全管理室 GRM 亘 啓子

医療安全の一環として5S活動を推進しました。機能評価準備委員会と連携しながら、RMをリーダーとして全職員が一丸となって以下の事を実践しました。

- 1 平成24年10月は、5S活動準備期間として、現場の状況を写真に収めることで、現状を把握し、5Sの推進計画を立てました。
- 2 11月は5Sの整理期間とし、整理で発生した不要な物をリユースする「黄札作戦」を実施しました。自部署の不用品が他部署で有効活用され、死蔵品が一掃されました。
- 3 12月は、整頓活動期間とし、院内共通の整頓のルールを決め実践しました。物品棚に棚番号が付き、収納場所を「目で見て管理」できるようになりました。
- 4 平成25年1月は、清掃・しつけの期間とし、決め事が実践されているか否かのチェックを行いました。  
3月28日には、5S活動の成果発表会を行い、院長賞(放射線課)、副院長賞(栄養調理課)、事務局長賞(PICU・手術室)、看護部長賞(NICU・第1病棟)、特別賞(医局・薬剤部)が授与されました。参加者から「大変良い発表会でした」との声が聞かれました。

## 講話会開催のお知らせ

以下のとおり講演を予定しています。  
是非ご参加ください。(申込不要)

### 第115回 講話会「周産期医療の光と影—小児在宅医療支援の重要性」

- 講師/埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター長 田村正徳 先生
- 日時/平成25年9月4日(水) 17:30~19:00
- 場所/群馬県立小児医療センター研修会議室

## 栄養調理課 課長 神保 裕子

機能評価受審にあたり、栄養調理課で力を入れたのは5S活動です。平成17年度に地下から3階に引っ越してから7年余りが経過し、不要物が捨てられずに溜め込まれていたため、思い切って廃棄し、整頓しました。特に、食品倉庫は缶詰・乾物等たくさんの種類を保管していますが、移動式の棚を購入し、先入れ先出しが楽にできるように改善しました。また、手洗い設備付近の死角になっていたガラス窓にホワイトボードを貼り、掲示板を設置しました。このように、課内全体で工夫しながら取り組んだ活動が評価され、機能評価ではお褒めの言葉をいただき、院内でも副院長賞を受賞しました。今後も、整理・整頓を維持し、効率的な作業ができ、気持ち良く働ける職場を目指しています。

## 母子保健室 課長 宮内 紀代美

母子保健室では、日頃、入院院児家庭の育児と在宅療養に関わる相談・支援及び地域との連絡調整を主として、医療福祉部門も担って活動しています。

このたびの病院機能評価で、第三者の視点で病院運営を客観的に評価されることから、当室では日々の業務内容を見直す絶好の機会をいただきました。院内の5S活動と室の業務マニュアル改定を行い、当日の審査では、院内における当室の役割について説明する機会もいただき、改めて入院されるご家族支援の重要性を感じた次第です。

今後もスタッフ一同、自己研鑽を積みながら、来室される方々に満足いただけるよう誠心誠意の対応をしていきたいと思えます。

## 院内行事紹介

### 小児医療センター講話会 平成25年5月21日(火)

#### ●第113回「遺伝子のかたち(クロマチンの核内空間配置)とその意味を考える」

■講師  
群馬大学大学院  
医学系研究科小児科学分野  
准教授 滝沢琢己 先生



### 平成25年7月10日(水)

#### ●第114回「埼玉県立小児医療センターの現状—新病院建設を中心に—」

■講師  
埼玉県立小児医療センター  
病院長 中村讓 先生



6月29日(土)にチャリティバザーを開催しました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

# 群馬県立小児医療センター 外来診療予定表

(平成25年7月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金	備考	
内科	総合内科	午前	丸山 健一	大木 健太郎	森山 剣光	山田 佳之	外松 学	
		午後	鮫島 希代子	椎原 隆	鮫島 希代子	佐野 仁志	新井 心	
	神経内科	午前	椎原 隆	清水 信三	渡辺 美緒	澤浦 法子	椎原 隆	
		午後	渡辺 美緒		渡辺 美緒 竹澤 伸子(第3週)			
	循環器科	午前	小林 富男 (午後は14:00~)	関 満	小林 富男		小林 富男 (午前9:30~ 午後14:00~) 下山 伸哉 (午前は9:30~)	
		午後			石井 陽一郎 (~15:00)			
血液腫瘍科	午後	外松 学 (14:00~)		林 泰秀 朴 明子 大木 健太郎 (14:00~)	外松 学(14:00~)			
腎臓内科	午後		丸山 健一		丸山 健一			
アレルギー・感染 免疫・呼吸器科	午前				加藤 政彦 (食物負荷試験)			
	午後	加藤 政彦	山田 佳之 (第1・3・5週: 初診14:00~16:00、 第2・4週:再診)	加藤 政彦	加藤 政彦	山田 佳之		
外科	一般外科	午前		土岐 文彰		西 明 (第2・4週) (何れも9:00~ 10:30)		
		午後		山本 英輝 五十嵐 昭宏 西 明 (第1・3・5週) 鈴木 完(第2・4週) 大竹 紗弥香(第4週)			西 明 土岐 文彰 (第1・3・5週の13:00 ~15:30:初診) 山本 英輝 (第2・4週の 13:00~14:00:初診) 鈴木 完 黒岩 実(第3週)	
	心臓血管外科	午前					宮本 隆司 吉井 剛 吉竹 修一 田中 佑貴 何れも9:30~	
		午後			宮本 隆司 吉井 剛 吉竹 修一 田中 佑貴			
	形成外科	午前	浜島 昭人 (9:00~10:00:初診)				浜島 昭人 (9:00~10:00:初診)	
		午後	浜島 昭人 荒木 夏枝				浜島 昭人 荒木 夏枝 (何れも14:00~)	
整形外科	午前	富沢 仙一		富沢 仙一				
	午後	(午前:再診、午後:初診)		(午前:再診、午後:初診)				
脳神経外科	午後				藤巻 広也 (第2・4週14:00~)			
総合周産期母子医療センター	新生児科	午後	丸山 憲一 小泉 亜矢		藤生 徹 井上 文孝 (第1・3・5週) 市之宮 健二 (第2・4週)	丸山 憲一 井上 貴博	藤生 徹	
	産科	午前	日下田 大輔(初診)	高木 剛(再診)	京谷 琢治(再診)		星野 正道(再診)	
		午後	高木 剛(初診)		星野 正道(初診)	日下田 大輔(再診)	京谷 琢治(初診)	
	胎児心臓外来	午前				石井 陽一郎		
	胎児超音波 スクリーニング外来	午後	石井 陽一郎 (~16:00)					
		午前	産科医師		産科医師		産科医師	
母乳外来	午後					産科医師		
特殊専門外来	麻酔科	午前		山内 聡子		廣木 茜	松本 直樹	
		午後	麻酔科医師					
	放射線科	午前	畠山 信逸					
	遺伝科	午前		鮫島 希代子(再診)	鮫島 希代子(再診)		鮫島 希代子(初診)	
	歯科・障害児歯科	午前	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	吉野 綾 市川 怜那	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	
		午後	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	木下 樹 吉野 綾 市川 怜那	
	耳鼻咽喉科 ※注2	午後	紫野 正人(第1週) 安岡 義人(第2・4週) 何れも15:00~		長井 今日子 (第1・3・5週) 中島 恭子(第4週) 何れも15:00~			
	眼科	午前			平形 恭子 (第2・4週)			
	小児精神科	午後				成田 秀幸 (第5週は再診のみ)		
	内分泌代謝科	午後		大津 義晃 井垣 純子 (何れも第5週を除く)				
リハビリテーション	午前		理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 富沢 仙一 (リハ外来、13:00~14:00)	
心理判定	午後		心理判定員					
予防接種	午後					(第2・4週、13:00~15:00)		

注1: 外来診療の開始時間は、注記のあるものを除き、午前は9:00、午後は13:00から

注2: 耳鼻咽喉科につきましては、都合により当分の間、新規紹介の受付ができませんのでご了承願います。